

トホクのニガウリ栽培方法

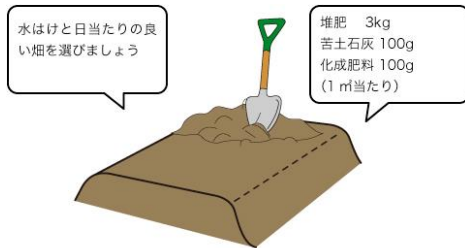
発芽適温：25～30℃ 生育適温：20～30℃
 土壌酸度：pH6.0～6.5 連作障害；2～3年あける

1. 作物特性

ニガウリは熱帯原産の高温性の野菜ですから暑さに良く耐え、病気や害虫にも強いので栽培の手間もかからない家庭菜園ビギナーにはおすすめの野菜です。ただ発芽しにくい性質ですので苗作りが最大のポイントです。通常ニガウリはどんどん伸びるつるをネットに絡めて栽培します。菜園だけでなく、グリーンカーテンとしてプランターなどを利用したベランダや庭先での栽培にも適しています。

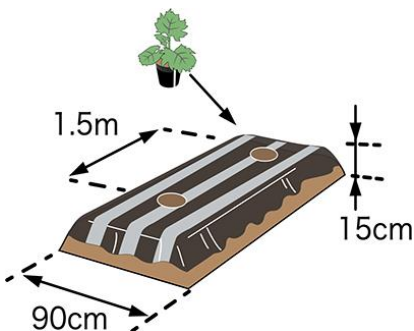
2. 畑の準備

畑にはあらかじめ 1m²当たり堆肥 3kg、苦土石灰 100g、化成肥料 100g を施し、よく耕しておきます。



3. タネまき・植えつけ

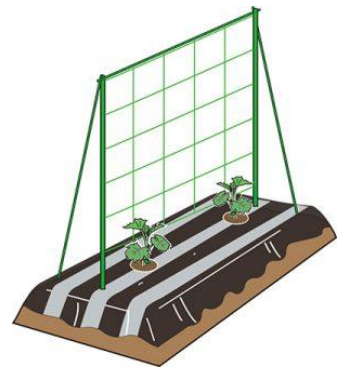
通常直径 9cm のポットにタネをまき、日当たりの良い場所で育てます。ニガウリは発芽までに日数の掛かる作物で、条件が良くても発芽まで 2 週間位はかかります。そのため、発芽までの間は発芽適温の地温 25～30℃ となるような工夫や、乾燥させないように管理には注意が必要です。



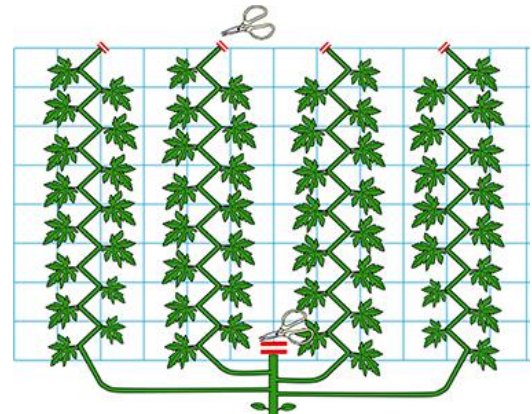
約 1 ヶ月間育てた本葉 3～4 枚くらいの苗を定植します。気温 15℃ 以上で、遅霜の心配がなくなってから植えつけましょう。株間は 1.0～1.5m が適当です。

4. 栽培管理・収穫

早めに支柱を立ててネットを張り、つるをからませます。支柱は風などで倒れる危険性がありますので丈夫でしっかりと立てます。



本葉 5 枚目で親づるを摘心します。親づるを摘心すると勢いの良い子づるが出てきますので 4～5 本を伸ばします。



子づるから発生する孫づるは基本的にはそのままにしますが、繁茂しすぎると風通しが悪く病気になりやすくなるばかりでなく、着果も低下するので、適宜摘み取ります。



着果が始まれば 7～10 日間で 1 株当たり化成肥料 30g を追肥して株の勢いを保ちます。

その後は草勢を見ながら定期的に追肥するのが長く収穫するポイントです。開花してから 14～20 日位で収穫できます。果実肥大が止まったら早目に収穫しましょう。



栽培例	まく時期		収かく期										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
冷涼地				●	●			■	■	■	■		
中間地			●	●				■	■	■	■		
暖地			●	●				■	■	■	■	■	